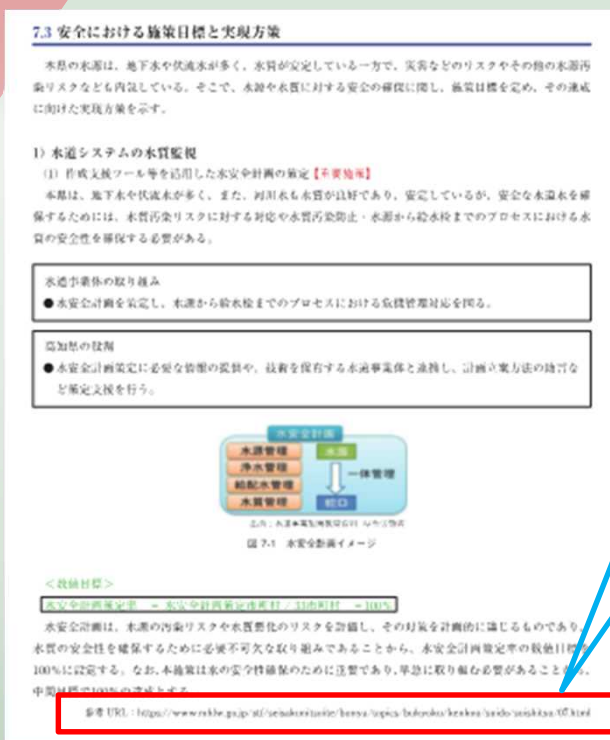


水安全計画における調査・検討

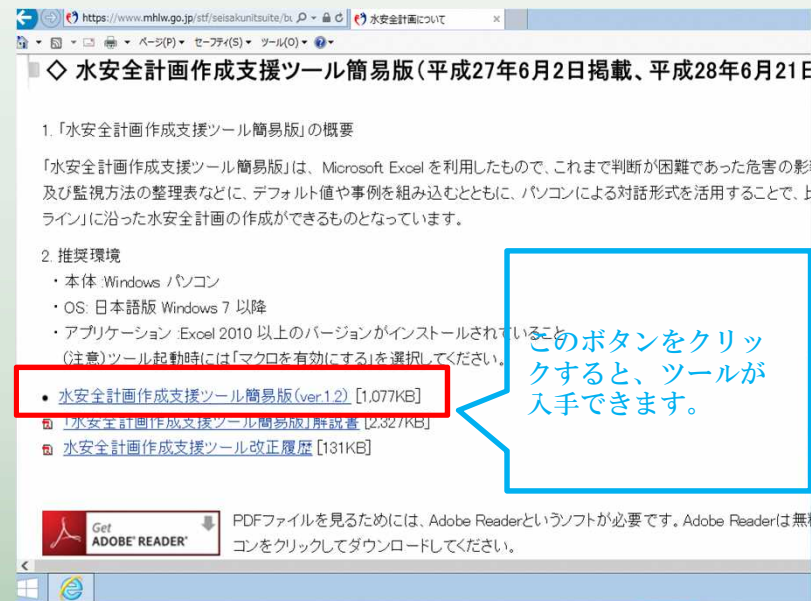
- 作成支援ツール（簡易版）の入手方法
- ツールへの入力方法
- 水安全計画策定・推進チーム編成
- 水道システムの概要整理
- フローチャートの作成

作成支援ツール（簡易版）の入手方法



留意事項：

- ・仮想から物理パソコンに移す際に、マクロが削除されることがあります。必要に応じ、情報政策担当課に依頼し、直接物理パソコンへ送付してもらうよう依頼する必要があります。
- ・他の方法では、公用USBを活用し、物理パソコンへ入れる方法も有効。



ツールへの入力方法

マクロが有効になっていることを確認したうえで、

- ・原則として、必要事項はこの列内（B～AA）に記載します。
- ・本文列の順に従って作業を進めてください。

注) マクロを使用するため行や列の削除・挿入、セルの削除・挿入はしないで下さい。
書き込みやクリア、セル結合・解除などは可能です。

いの町
水安全計画

ここをクリックし、入力する。
下のマスの欄も、入力を粛々と進める。

エクセルのマクロを
有効にしてください。

旧バージョンからのデータ移入マクロ

01_水安全計画の名称入力

浄水場の名称がいいでしょう。

水安全計画を二つ以上作成する場合、一つの施設を作成した後に「既作成の利用」を選択して作業を行うと、効率的に作成することができます。 ↓紫色が実行中を示しています。

新規の作成

既作成を利用
しての作成

どのような場合に利用すると便利か、
右のマクロで確認してください。

→ パターンの
内容を確認

水安全計画策定・推進チーム編成

- ・ガイドラインの留意点を踏まえたうえで、チームを編成する。
 - ①チームのメンバーは、水道システムの危害原因事象に関する知識があること。
 - ⇒水道担当課長
 - ②安全な水を保証する全ての変更事項に対する責任、権限がある人を含めること。
 - ⇒水道技術管理者
 - ③日常の作業に関わっている人を含めること。
 - ⇒水道担当係長、維持管理業務の受託業者

※赤色文字は、県がガイドラインの留意点を読み取って、モデル事業において、実際に設定したもの

水道システムの概要整理

- 最新の許認可図書を参考に入力する。
- なお、水源水域の特徴については、認可図書では、情報が不足しているので、現地の情報を補足する。

フローチャートの作成

- 最新の許認可図書を参考に入力する。
- 認可図書では、情報が不足しているので、現地の状況を反映する。

2. 2 フローチャート は空白で作成する。14 ページで作成する「危害評価シート」が完成すると自動的に書き込まれます。次図は出力例ですが、処理施設数が多いと 2 列にわたり出力されます。

ここでの作業はフローチャート完成後に、AB 列の薬品図を本文列にドラッグしてフローチャートに書き込むことです。大きさ等は適宜変更してください。

なお、自動作成の部分をクリアし、既存のものを貼り付けるなど新たに作成しても OK です。

